

特集 **生まれ出るいのち**

2 **「巻頭言」**
45度で聖なる空間へ 鈴木隆

3 **ドキュメント・光がさすとき** (家庭編)⑩
〈現代のインスマエル〉
わが子とともに歩む道 大黒千尋

9 **不妊症治療の現場から** 中田英之

16 **生まれてくれて、ありがとう！** アンナ・エス・ビル・コー
フォーラム

22 **歌に折りを響かせて——作曲者にきく**⑨
「恐れないで」の前田智晶さん 黒川京子

27 **ストレス社会と日本の教会・下** 荒川博行

生活の中に福音がひびく

66 **悔い改めにふさわしい実** 水谷安江

運 載

53 **折りを風吹く詩編**⑪
主は正しい道に導かれる 高橋重幸

39 **闇の中に輝く福音** (最終回)
ビジュンなき民は滅びる 英隆一朗

45 **闇がれ、とともに生きる人——私の出会った人たち** (最終回)
アジアの障がいをもつ仲間たち 中原えみ子

51 **派遣の地で折り願ったこと——信徒宣教師に聞く** (最終回)
ミツヨシはすべての人に 森原比呂志・辻明美

57 **イエスが父と呼んだ神** (最終回)
永遠のいのちを信じます 岩島忠彦

64 **司祭館の日向ぼっこ——教会の「現」風景** (最終回)
聖堂のありよう 森山勝文

72 **つよん**

福音宣教

キリストを伝えるカトリック月刊誌

2010

12

「実にあなたがたのただ中に」

日本に根ざした福音とは

が増えたように思います。人との付き合い方も自分を偽ることがなくなり、本音で話せるようになりました。心と体が、あるべき自然の姿に少しずつ戻っているよ
うな、そんな感覚が最近ではあります。それも子ども
たちのおかげだと思います。

本當の食べ物

「食べる」ということについても、生活の中で大きく
変化したことの一つです。妊娠から今日現在まで、そ
れまでよりも「食」が特別な意味を持つものとなりま
した。おいしくて体によいものをつくり続けることは
大変なことですが、少しずつ食事の支度をすることで
自分に知恵がついてきているようにも思いますし、何
事も気持ちいいで楽しんで、必ずそこから学べること
があると思います。自分の健康はもとより家族全体の
健康をあずかることの責任と幸せを感じる毎日です。
毎日の食事でも母と子はつながっているわけですが、
親のすべてを吸収する子どもたちにとっては語りかけ
る言葉も心身を形づくる「食べ物」になると思います。
体をつくる「ごはん」と心をつくる「言葉」の両方で
よいものを与えることができるように、努力していき

光がソト さすけき

家庭編 10

現代のインマニエル

不妊症治療の現場から

漢方医 中田 英之

不妊症治療を受ける女性の精神構造

不妊症治療の患者は「自分の遺伝子、配偶者の遺伝子を残したい」と表現することが多いが、はたして遺伝子は残すことができるのだろうか。意外に思えるかもしれないが、そもそも、現在のような少子化社会の中では、遺伝子は残らないというのが答えなのだ。高校の生物で習うメンデルの法則に従って遺伝子が伝達されると仮定すると（正確には遺伝子の交叉などがあり、厳密にはメンデルの法則は保存されないのだが）、性を決定するのは精子ということになるから、娘しか生まれなかった家族においては、父親系の祖父の遺伝子は伝わらない（父親のY遺伝子は孫娘には届かない）。よって、息子が生まれなかったカップルは、祖父の遺伝子を残すことができないことになる。「遺伝子つて

世界中でイエスの誕生を祝うクリスマス。お祝いムードで世の中が満たされる中、不妊症治療の深みにはまってしまうカップルは、複雑な思いでこの時期を過ごす。なぜ、妊娠出産はかくも難しいことになったのだろうか。先ごろ、ある女性の国会議員がアメリカで卵子提供を受けて妊娠をしたと誇らしげに報告をしていたが、これをどうとらえたらよいのだろうか？ご本人としては、「率先して不妊症治療を推進して子どもに恵まれない人に希望を与えたい」ということなのだろうが、少なくとも私には「国会議員になって国を動かすようになり、すべての願望がかなったが、唯一『子どもを持っていないかった』ので、力づくでそれを得た」、そのようにしか見ることができない。そこには、物質社会の欲望が見え隠れするように思われる。

でも、考えて欲しい。たとえ孫娘に遺伝子は伝わっていないとしても孫娘は孫娘である。ちゃんとかわい
 いと思えるのである。それはなぜか。遺伝子を残すこ
 とが目的でなく、自分どのかかわりを持つ新たな人間
 の誕生を喜び、成長を楽しみにしたいという素直な気
 持ちがあるからであろう。私は、漢方医として不妊症
 治療にかかわっているのだが、漢方外来を訪れて妊娠
 を希望する人に対しては、「あえて人の世話をしたい、
 あえて苦勞して育てたい、自分の利益ではなく、隣人
 を愛するということを一歩、身近なところで実践する
 ことを人生で学びたい人が、子どもを作るのですよ。
 他者の幸せでなく、自分の幸せを希望するならば、子
 どもなんか作らない方がよい」と強調することにし

晴佐久昌英 著

新刊

幸いの書

四六判・二六〇頁・一、四七〇円(税込)

福音書を開くとどの箇所にも「あなたを愛している」という神の言葉が潜んでいる。この神のラブレターを、読み取ってほしい。辛いときや落ち込んでいるときに、くり返しこの「幸いの書」を開いてみよう。

ゴールデンウィーク前の四月、三十四歳の女性がふ
 りりと外来にやってきました。結婚して五年経つが、子ど
 もには恵まれない。特に、ここ一年意識して子どもを
 欲しいと思うようになってきたが、なかなかうまくいかな
 い。そもそも、体調が悪く、冷え症、便秘、月経前に
 は頭痛、胃痛(いわゆるPMS＝月経前症候群)、精神
 不安定がある。某診療所に承らう漢方治療を受けてい
 だが、あまりに症状が多形で、なかなかよくなるな
 いこともあって、診療所のドクターから「あなたはもう
 来なくてよい」と言われた、と開口一番、一気にま

症例

ている。ここで、症例を一つ提示することにしよう。

こんな簡単に途絶えるのですよ。遺伝子にこだわ
 るカッパルにメンデルの図を示しながら説明するのだ
 が、説明に驚く人も多い。
 遺伝子も残らないのだとすると、何のために子ども
 を産みたいのだろう。意外にこのような根源的な質問
 をすると返答につまるカッパルが多く、大抵は、漠然
 とある歳になつたら一人ぐらいいは子どもが欲しいのだ
 ということに落ち着く。
 結局、「自分の」子どもという物が欲しいのだ。不
 妊症治療は、まさに欲望(物欲)と執着の世界である。
 すでに、この時点で子どもは一人の人格としてではな
 く、「物」として認識されている。すでに物として認
 識されているから、自分の都合に合うように男女の産
 み分けにも自ずと関心が向くし、さらには健全な子ど
 もが欲しいので染色体検査も実施したいし、異常が発
 覚すれば、中絶を希望するということになり、生まれ
 てから少しでもイメージと異なった部分があると「自
 分の子どもではない。自分の子どもにしたいくない」と
 いう感情に結びついてくるのだ。この辺を追求される
 と、患者はすぐに、「育てるのが大変なんだから、育
 てる身になって考えてください」と息巻く。一種のペ

ットを手に入れるような感覚だ。もつともペットです
 ら、最近では病気になるたら動物病院に置き去りにする
 人がいると聞く。治療費より新しいペットを購入した
 方が安いからだろうだ。
 話がそれてしまつたが、このように、多少なりとも
 不妊症治療を希望してくる患者さんたちは、最初の段
 階で自分たちの子どもを物として扱い始めている。産
 婦人科医も患者の物欲を煽るかのごとく、患者の希望
 をかなえることはよいことだと、畜産技術を人間に応
 用しているという事(是非には目をつぶってさまざま
 な技術革新を喧伝する。さらに、そこに情報化社会の
 過剰な情報(雨あられと患者の上に降りかかる。「卵」
 (不妊症患者は「タマゴ」と言う)が古くなるので何歳
 までに子どもを作ろうとか、夢のような現実離れた
 子どもとの生活、といった情報に不妊症患者が触れる
 ことで、早めに不妊症治療を始めなくてはならないと
 いうあせりが生じてくる。まさに、商店での物の販売
 と同じ構図だ。「もう少しで売り切れよ。今買わな
 いとなくなりますよ」と言われると元々買うつもりが
 なくても何だか買わないと損をしたような気分になる
 というそれである。

生きるためのひとこと

言葉には力がある。「おはよう」「ありが
 とう」など、ふだん何気なく口にする言
 葉を大切にすることで、生きる喜びと力
 が湧く。言葉の持つ不思議な魅力を追う、
 やさしいエッセイ。

女子ハブウロ会

ご注文はお近くの書店へ
<http://www.painline.or.jp>



なかた・ひでゆき

東京教区松戸教会信徒

1970年生まれ奈良県出身。日本産科婦人科学会専門医、日本東洋医学会漢方専門医。1998年防衛医科大学校卒業、同大学校産婦人科入局。陸上自衛隊勤務を経て2005年度に所屬。2006年より練馬区総合病院の漢方内科、同病院健康医学センターを兼任。日本東洋医学学会EJBM委員、同広報委員会委員。

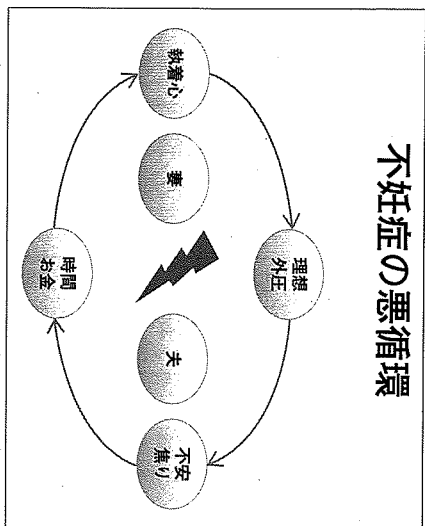
不妊症治療の中に愛を見いだす

幸運にも先の患者は、妊娠への過程において、夫婦の間に子どもができる意味について理解がすずんだ。

はやってくる。

は私に妊娠を告げた……。準備が整う時、突然子どもと感じた。そして、その二週間後、外来を訪れた彼女「す」と言ったのだ。私は、これで彼女の準備が整ったことが目的かという、そでないような気もしまわしい気持ちが強かったように思います。苦勞して育てる子どもが欲しいと思いましたが、自分が充実したいよりもあり、また子育て中の友人を横目に見て、自分もな気がする。年齢も四十歳の足音が聞こえてきて、焦

不妊症の悪循環



くし立てた。私のところには、近くの産婦人科医経由で紹介されてきたのだが、少々変わり者の私のような漢方医のところであれば、さじを投げられるだろうなど、納得。とはいえ、よくなりたいと思つて私の所に来たのだから、これも何かの縁だと考え、治療に取り

問診してみると、頭痛、腹痛以外にも、胸も痛い、

しかし、このように理想的な妊娠への準備が進む女性にむしる少数派である。結婚したカップルは、何歳まで子どもが欲しいという漠然とした希望を持つのだが、図（前頁参照）に示すように、その後、一年を過ぎて子どもにも恵まれないう、周囲が次第に騒がしくなり、「まだ子どもができないの？」「病院に行つたらどう？」「と不安を煽られる。自身も日々年を取つていく（当たり前だが）のに焦りを覚えて、産婦人科を訪れる。産婦人科で治療が始まると、毎月毎月の治療費がかさむ。さらには、日常生活が月経サイクルに縛られ、排卵期に仕事を休んでもらつたりと、二人の生活が不妊症治療を中心にまわることになる。月日が経つにつれ、費やしたお金、時間があたかも不良債権のように二人の肩のしかり、今までに費やしたお金と時間を考えると、何としても妊娠しなくてはと、さらに執念を燃やすことになり……。はたして、最後には夫婦の関係も破綻するという悲惨な結果を向かえることも少なくない。本来は、このような曠地獄に陥る前に、そもそも結婚の意味は？と原点を振り返り、相手を思う気持ち、一番身近な隣人への愛を表現すること、夫婦生活の第一歩であることに気づくことが大

に、私、まだ子どもを育てる準備ができていないよう

よく気持ち悪くなる、普段からイライラして怒りっぽい、寒がりやで冷え症、浮腫がひどい、体もかゆい、とぞるぞるこれでもかという症状。このような時、西洋医学では、不定愁訴（自覚症状があつても原因がでない状態）のかたまりと見なされ、たいていの場合、精神病の烙印を押してしまうのだが、漢方医には、瀉下剤といつて便通をつけて気分を良くし、さらにイライラや体の不調を抜き取るという治療手段がある。この患者さんにも「大柴胡湯」と「通導散」という、体の過緊張を取り、同時にややもやした気持ちやたまった物を外に排出するためのとっておきの処方を使用した。その後、処方して一週間後に再診。浮腫が取れて、何だか具合がよいという。

切なのではないかと、つくづく感じる。

不妊症治療がこれほど進む前の旧約聖書の時代には

このような問題はまったくなかったのだろうか？と

思つて聖書をもう一度読み返してみると、そうでもな

いようである。例えば、アブラハムと妻のサラには子

どもがでなかつた。そこで、使用人のハガルとの間

に子どもをもうけた、とある(創世記16・1-4参照)。

当時、直系の子孫を途絶えさせないためには、使用人

を第一の妻として迎え入れることもあったようである。

その後の話はご存じだと思つが、アブラハムとサラの

間にもイサクが生まれ、サラに追い出されたハガルと

イシマエルは砂漠を放浪することになる。ある意味

では、現代よりももっと子孫を残すということについ

ては冷酷であつたと言えるが、子どもを物と考へて物

をほしがるという発想とは違つうように見える。その

後、イエスが登場して「隣人愛」という大きな枠組み

で存在をとらえ直すことによつて、「私」の子孫が

「我々」の子孫としてを子孫と捉える発想

の転換が行われ、初めて、旧約聖書時代の習慣を否定

することができるようになった(と私は考へている)

のだが、このような概念を受け入れるには、受け入れ

人という関係性の中でつながるといふ地平と同平面で

あり、仏教用語で言う縁起そのものであり、物から行

為への転換を意味する。我を廢するといふことは、す

なわち、我がまだ発生しない赤子のようにあれという

ことと同意義で、結局、イエスが聖書を通じて語るこ

とどほば同意義であることとも考えられる。このよう

な関係性を意識した上で、我々は行動しなければなら

ないのだが、これについても仏陀がおもしろいことを

述べている。弟子にどうすれば、悟りを得られますか

と問われた仏陀は、「私は、世間におけるいかなる疑

惑者をも解脱させ得ないであろう」と言つて、彼岸へ

の道は、自分自身で実践して疾くしかないと言つたの

だ(前掲書参照)。

教会は、イエスを通した神への取り次ぎを請け負う

のではなく、教会は、愛の表現を分かち合う場として

存在することが求められるのではないかと考へる。す

べての信徒は、実践することを通じて愛を表現しなく

てはならないのだと私は思う。

クリスマス、イエスの誕生を祝う日に、少し振り返

つてみるのはいかがだろうか。

るための器を造る教育が必要である。

教会が果たすべき役割

今まで述べてきたような、隣人愛を体で感じ、さら

に表現できるように信徒が変わるためには、教会は何

をしなくてはならないだろうか。一信徒として私が

思うのは、まず、自分の幸せのために十字架に願ひ、

イエスに頼ることをよとしていては、無理だろうと

いうことだ。この問題に関して、禪を極めた道元が参

考になることを書いている。「仏になるいと易き道あ

り(こでいう仏とは悟つた人という意味)。諸々の悪

を作らず、生死に著する心なく、一切衆生のために憐

れみ深くして、上を敬ひ、下を憐れみ、万事をいとう

心なく、願う心なくて、心に思うことなく憂うる事な

き、これを仏となづく。また、外にたづぬることなか

れ(白取春彦『初めて知る仏教』より抜粋、一部を改変。

以下同)。また、禪の世界では無分別知という言葉

使うが、これは、「物事を判断する知性(我)を廢し、

彼我の境をなくすこと(神の愛とほほ同じと考へられる)

で、この境地が悟りであり、静かな幸福に満たされる

としていゝ。この彼我が融け合う地平は、すべてが隣

おわりに

最後に、読者の皆様の参考になるかどうか分からな

いが、私が漢方外来で掲げる、妊娠するための養生十

カ条を書いておく。

一、炭水化物を減らすこと。(腹は七分目)常におなか

が空く状態、軽い飢餓状態が体の機能を高める。

三、甘いものを食べすぎない。

四、果物を摂りすぎない。特にトロピカルフルーツは

禁物。

五、冷たい物を基本的に飲まない。

六、コヒト、緑茶を避けて焙じ茶を基本とする(一

日に一度ぐらい飲むのは可)。

七、排卵期を意識しすぎない。体調を整えることに専

念すること。

八、物事に執着しないこと。何か考え込み始めたら散

歩をするなりして気分を爽えること。

九、妊娠のことを考へないこと。むしろ生活を楽しも

う。

十、夫婦仲良くすること。体の調子がよくなれば、相

手を思いやる気持ちも増してくる。